

## 令和3年度 第3回古賀市図書館協議会会議録

会議名称：令和3年度第3回古賀市図書館協議会

日時：令和4年3月29日(火)13時30分～15時

場所：古賀市役所第一庁舎4階第2委員会室

主な議題：①令和3年度図書館事業報告について

②図書館の利用状況比較(平成29～令和3年度〔4～2月分、年間分〕)について

③「第4次古賀市子ども読書活動推進計画」の策定について

④令和4年度予算における事業概要

傍聴者：0名

出席者：園 久恵委員、村山 美和子委員、鈴木 章委員、河村 正彦委員  
久池井 良人委員、八坂 由美子委員、井上 文子委員、長澤 正之委員  
以上8名

欠席者：0名

事務局：6名

配布資料：(1) レジюме

(2) 資料1 令和3年度図書館事業報告について(P1～5※P3 除く)

(3) 資料1-2 令和3年度事業報告について(P3 特別展示架)

(4) 資料2 補足説明資料(P6～7 現況写真)

(5) 資料3 図書館の利用状況比較(H29～R3)表 (P8～9)

(6) 資料3-2 図書館の利用状況比較(H29～R3)グラフ (P10)

(7) 資料4 「第4次古賀市子ども読書活動推進計画」の策定について (P11)

(8) 資料5 アンケート結果から見る子どもの読書活動の現状 (P12～13)

(9) 資料6 これまでの成果と課題(まとめ) (P14)

(10)資料7 第4次計画の体系図(案) (P15)

(11)資料8 令和4年度予算における事業概要 (P16～17)

### 1 開会のことば

(事務局) 本日司会進行をさせていただきます、文化課参事補佐兼図書館係長の吉田と申します。  
どうぞよろしくお願い申し上げます。

はじめに協議資料の確認をさせていただきます。本日説明いたします資料は、先週郵送  
させていただいたレジюмеの他、計17ページのホチキス止めた資料になります。お手元  
にございますでしょうか。

本日の会議につきましては、会議の公開制度に基づきまして、傍聴席を設けております。

また、会議の内容につきましては、会議録を作成し、古賀市のホームページに公開させ  
ていただきますのであらかじめご了承ください。

次にご発言される際のマイクの使用についてです。発言されるときはマイクのスイッチ  
をオンにさせていただいてからお話してください。終わりましたらオフにさせていただくようお  
願います。スムーズな会議録作成のため、ご協力をよろしくお願いいたします。

それでは、令和3年度第3回古賀市図書館協議会を開催いたします。

開会のことばを文化課長の柴田より申し上げます。

(課 長) 皆様あらためましてこんにちは。本日は年度末の本当にお忙しい中、お集まりいただきましてまことにありがとうございます。心から感謝申し上げます。先日、人事異動の内示が発表されまして、図書館としては大きな動きはございませんでしたので、またこのメンバーで来年度もよろしく願いいたします。

早速ですが、令和3年度第3回古賀市図書館協議会を開催します。よろしく願いいたします。

## 2 部長あいさつ

(事務局) 次に教育部長の横田より御挨拶申し上げます。

(部 長) 皆さんこんにちは。教育部長の横田と申します。よろしく願いいたします。

この古賀市図書館協議会につきましては、前回の第2回が書面会議となってしまいましたので、6月以来の会議となっております。どうもお久しぶりでございます。

書面開催となった原因がコロナウイルスの影響によるものでございますが、今でも感染者数が県内では下げ止まり、前週より徐々に増えてきている状況でございます。なかなかいい傾向にならない状況で、皆様におかれましても心配もされるでしょうし、生活やお仕事などでなんらかの制限もおありではないかと思えます。

図書館運営におきましても、ウィズコロナで運営してまいりました。振り返りますと、感染予防対策としてやむなく令和3年度も2か月以上の休館や事業の中止、利用者には滞在時間の短縮の御協力を得ながら、私達職員としましては、可能な限り工夫を行いながら運営に取り組んだところでございます。そのため図書館をご利用の方には大変ご不便をおかけしたと思っております。本日はそのような活動を含めて令和3年度の事業や第4次古賀市子ども読書活動推進計画の進捗状況などを報告、説明をいたします。

委員の皆様におかれましては限られた時間となりますが、ご協議いただきまして、御意見や御指導を賜りたいと存じます。どうぞよろしく願いいたします。

## 3 会長あいさつ

(事務局) それでは、会長あいさつ、鈴木会長お願いいたします。

(会 長) 改めまして皆様こんにちは。

私は、実は1月から地域で子ども達を対象とした学習上の居場所づくり、寺子屋事業にかかわっております。そこで先日、ある子どもが漢字ドリルをするときに、私達が用意した小学生用の国語辞典を貸してあげると、一生懸命引いているんですね。コンピュータ、タブレット全盛のご時世に、子どもが一生懸命に辞典を引いている場面を見てなんだか嬉しくなり、ほっとしました。「このような光景にほっとするような時代になったんだな」と改めて思った次第です。

今日はそういったことも含め、まさに新しい図書館の在り方も含めて、読書環境のこともそうですけれども、今年度スタッフの皆さんがご努力された成果を説明していただいて、協議していきたいと思えます。どうぞよろしく願いいたします。

#### 4 協議等

##### 1. 令和3年度図書館事業報告について

- (会 長) それでは早速ですが、協議に入らせていただきます。  
持ってきていただいたと思いますが、資料等を見て、ご説明を頂きたいと思っております。  
内容的には大きく4つに大きく区切りましてそれぞれその都度協議していききたいとのことですので、どうぞよろしくお願いいたします。
- (事務局) 会議途中ですが、ここで部長が公務のため退席させていただきます。
- (会 長) ご苦勞様でございます。それでは、最初に令和3年度図書館事業報告について別紙1から7ページまで、御説明をお願いします。
- (事務局) それでは、協議等の説明をさせていただきます。  
内容としましては、大きく4点ございまして、一点目に「令和3年度図書館事業の報告」二点目に「過去5年間の利用状況比較」、三点目に「第4次古賀市子ども読書活動推進計画の策定内容」、四点目に「令和4年度予算における事業概要」となります。  
コロナの影響を受け、本年度2回目の対面開催となることもあって、ご協議いただくボリュームが多くなっております。限られたお時間の中で進めて行かなければなりません。大変恐縮ですが、事務局による説明も駆け足気味になってしまっていますが、ご理解の程よろしくお願いいたします。  
それでは、『1. 令和3年度図書館事業報告』について御説明いたします。  
レジュメに沿いまして『(1)主な事業の実施状況』から『(3)特別展示架・情報ラックの展示内容』まで進めます。令和3年度も新型コロナウイルス感染症の影響を受け、やむを得ず2回の臨時休館を実施したところではありますが、図書館事業につきましては、令和2年度に実施できなかったものの順延開催を含め、コロナの状況を見ながら内容を見直すなどして進めていったところでございます。
- 1 ページ、『(1)主な事業の実施状況』について、主なもの2つをご紹介します。1つ目は、7月30日に開催した「高校生によるおはなし会」です。  
これは、玄界高等学校の図書委員会による企画で、「子どもの頃に楽しみだった絵本の読み聞かせを朗読劇で披露することで、読書の原点となる絵本のすばらしさを広げていきたい」との想いで、今回は紙芝居と絵本の挿絵を、使用許諾を得てスクリーンに拡大投影する形で実施しました。練習の成果もあり、生徒同士で互いに視線を送り合い、言葉を重ねて行く様子が原作本の良さを引き立てていました。参加した子ども達もじっと見入った状態で、帰りには生徒達に「また見に来たい」と声をかけるなど大変好評でした。  
玄界高等学校の図書委員会は、これまでも夏休み期間中に学童保育所へ訪問朗読に行くなど、学校内にとどまらない多様な自主活動を行っており、また、今回視察を兼ねて参加いただいた古賀競成館高等学校の図書司書の先生からも、「今度は是非うちも参加したい」と声をいただくなど、活動の輪が広がりつつある状況でございます。
- もう一つは、2月5日に開催いたしました「読書ボランティア団体交流会」です。この研修会では、通常はグループ討議をしておりますけれども、今回はコロナ対策として講話形式を採用し、講師には福岡県立図書館にて長年児童書や YA サービスに関わられた経歴

をお持ちの河井先生をお招きし、子ども読書の推進、コロナ禍における対応についてお話しをいただきました。

この中では、子ども読書推進のポイントとして「子どもを知ること」、「子どもの本を知ること」、「子どもと本とを結びつけること」この3点をポイントとしてあげていただきました。また、コロナ禍であっても特別なことは必要でなく「絵本の力」や「子どもの力」を信じることで、ボランティアの根幹は「子どもと本を会わせること」でありコロナ禍であっても変わりはないこと、といった内容を、事例を交えて熱く語っていただいたところです。参加者からは、「コロナ禍において基本をおろそかにし、うまくいかないのは子どもの方に問題があるとばかり考えていた自分に気づかされた。」「三密対策で悩みは多いが、基本に立ち返り、自信を持って子ども達に本を手渡す活動を続けていきたい。」といった感想が寄せられました。

この内容を受け、令和4年度は、「読み聞かせボランティア研修会」といった内容で、活動の幅を広げ、スキルアップ習得の機会となるような研修を実施したいと考えています。

2 ページは、『(2)月例行事等の実施状況』です。

細部の説明は省略させていただきますが、令和2年度よりもおはなし会等の月例行事の実施回数は増え、1回当たりの参加者も少しずつではございますが増加傾向にある状況です。今後は、行事の企画や配布するチラシの内容、配布先などを工夫し、読み聞かせの大切さや適した本の情報を届けるなど、その後の読書活動につながるよう働きかけを強めて行きたいと考えています。

3 ページは、正面玄関入ってすぐに設置している『特別展示架・情報ラックの展示内容』です。ご存知のように、図書館では季節や時事のニュースに合わせた特集コーナーやおすすめの本の紹介を行っていますが、令和3年度は趣向を凝らし、オリンピック・パラリンピック企画にあわせ、本物の聖火トーチやユニホームを展示しました。また、中村哲医師のコーナーを正面玄関近くに移設したことにあわせ、古賀西小学校の生徒が調べた作品と一緒に展示するなど、興味関心を引き出し、より本を手に取りやすくなるような情報提供に努めたところでございます。

4 ページ、『(4)電子図書館サービスの利用状況』をご覧ください。

令和3年3月の電子図書館サービス開始から約1年が経過し、令和4年2月末現在で3,142点の貸出があったところでございます。月平均の貸出数は約270点、月によって利用の波があり、8月と9月は、電子図書館サービスの利用にあたって別途必要だった電子図書館利用申請をコロナ臨時休館にあわせてスムーズに利用できるよう改良したこともあって利用増となりました。しかし、休館が明けますと紙の本を求める傾向からか、利用が減るといった状況で、現状は正直伸び悩んでいる状況です。

電子図書館サービスの周知については、これまで広報紙への利用案内の掲載やホームページやポスター掲示、またデジタルに抵抗がないと思われる高校生を取り込むため、古賀竟成館高等学校にポスター掲示するなどの働きかけをこれまで進めてきました。

利用全体としては、電子より紙の本を求める傾向が強い状況ですが、電子図書館サービスのさらなる利用を図るため、図書館来館者はもとより、小・中学校にはGIGAスクール構想で導入されたタブレットもございますので、朝読の時間での利用の促進、保育所・幼稚

園を通じての若い保護者層にアクションをかけ、シニアクラブや千鳥苑等を利用される高齢者にも働きかけを進めているところです。

今後も、魅力的なコンテンツの充実と利用周知、また紙の本と電子の相互補完による全体のバランスを考えながら、電子書籍のメリットを活かし、今回示した電子書籍の貸出しランキングなど利用状況も踏まえながら、より効果的に推進して行きたいと考えています。

5 ページ、『(5)新型コロナウイルス感染症への対応』、『(6)館内の環境整備』をご覧ください。『(5)新型コロナウイルス感染症への対応』につきましては、緊急事態宣言下においても、「市民が図書館を利用して読書することは大切である」という運営方針から、令和3年度からは、臨時休館中も臨時窓口を図書館入口付近に開設し、縮小しましたが図書館サービスを継続しました。

また、立ち入りを制限した閲覧室では、利用者の声を踏まえた図書館資料の整理や書棚の改修を行い、更に除籍した児童書を市内の公共施設や読書ボランティア団体を対象に、ブックリサイクル内覧会を開催してリサイクル提供するなど、開館中にはできない作業に取り組みました。普段と異なる形でのサービスに努めたところでございます。

臨時休館が明けた後も、三密回避のための、滞在時間の制限や座席の制限、返却本の表面を消毒液で拭き取る作業の徹底などを現在も行っております。さらに、1月の蔵書点検休館期間には、カウンターの飛沫感染対策として吊下げ式ロールスクリーン設置工事を行い、カウンター周りをすっきりとさせました。また、消毒・検温機器の内容充実など、安心して図書館をご利用いただける環境づくりに努めているところでございます。

5 ページ下段、『(6)館内の環境整備』、6～7 ページには参考までに関連写真をお付けしております。申し遅れましたが、私は今年の7月にこちらに異動してまいりました。最初に確認させていただいたのが、この古賀市図書館協議会の会議録でした。令和元年度の会議の中で、会長の御挨拶の中で触れられた「学生さんが行きたくなる、質・量ともに揃った図書館像」というお話が、私も共感する部分がありとても印象的でしたのでこの場で紹介させていただきます。

具体的には、質的な部分として、「安心でやすらぐ、雰囲気の良い図書館」「ユニークなイベントや様々なニーズに即した本や情報がある図書館」「レファレンスを含め、親しみがあっている色々な情報を教えてくれる図書館」、また量的な部分では、「紙の本と電子メディア等が充実した図書館」といった御意見を会長の生徒さんがあげられたということでした。

このお話をもとに、館長の指示のもと、司書と連携し、まだ十分ではございませんが、「できることから順に」という合言葉で改善に努めている状況です。

以上が、令和3年度図書館事業報告となります。

(会 長)

ありがとうございました。それでは順に見ていきたいと思っております。

(1)から(3)、1 ページから3 ページまでで御意見、御感想、御質問などございましたら出していただけたらと思っております。私のほうから感じたところですが、1 ページ、2 ページもそうですが、コロナ禍にあっても事業の参加者が結構多いなと思えました。また、タイムリーな、非常に創意工夫を凝らした、参加者が興味を持つような事業を企画されました。特別展示関係もそうですけれども3 ページまでを見てそのように思ったところです。いくつか具体的に事業をピックアップしてご説明していただきました。

(副会長) 私も付け加えです。コロナ禍にあって、2か月の休館も経て、これだけの事業を実施されたということは非常に大事なことではないかと思います。コロナで中止ということが多いのですけれども、中止だけではやはりいけないと思います。できるかぎりのことはするんですが、たとえその時期は休館であっても別の時期に行うとか、精一杯の努力をされた結果がよく表れていたと思います。

そして、ただ単に例年実施されている事業を単に時期をずらしただけでなく、新しいことに打って出ているですね。特に若い世代、高校生は利用は多くなくても、利用を基に新たに発展していく事もあると思います。電子書籍の事もありますがオンラインも含めて、いろんなかたちの発信も若い人たちはできるのではと思います。

3 ページの特別展示架、情報ラックについて、一覧表にすると非常によくわかります。私はこれをぜひ市民の方に知っていただきたいと思います。

どちらかというところ図書館では、広報紙にこんなことやりますという発信はされますが、逆に「こういうことをやった」、「このような反応があった」、「これだけの出席があった」という記事があれば逆に好きになるとか、お知らせの案内も大事ですが、ただこれだけのことをされているから、ぜひPRを今後の利用促進も含めてご紹介いただけたらと思います。とても参考になりました。

(会長) 1 ページで説明が2か所ありましたね。高校生の活躍、古賀竟成館高等学校への次の広がり、大切な視点、期待しているところです。

読書ボランティア活動で活躍されている方に対する研修が2月にあったということですが、このような地道な取組、勉強会、ここは大事だと思いました。さすがに本当に大切なところをついていると思います。

他に何か御意見、御質問ありませんか。よろしいでしょうか。

4 ページ、電子図書館サービスについて、メリット、デメリットのところもあり、若干伸び悩んでいるのではとのお話がありました。このページについて何かありましたら。

それでは5 ページ、6～7 ページ、現況の写真もあり、大変わかりやすくまとめ、説明していただきました。具体的などころもいくつか出ておまして、どうでしょうか。お気づきの点でも結構でございます。

(河村委員) 新型コロナウイルス感染症への対応について、何ができるかをもう少し細かく検討すべきだという話は以前の会議でも出ましたし、それ以後も続けておられたと思います。

それで、今回このページを拝見して、多面的に細かい配慮を持っていろいろなさっているということがわかりました。今、会長からもありましたが、私もそのように思いました。

後に続くカラーの写真で、努力なさっていることをこんなにきれいに紹介していただいたのは5～6年で初めてです。これ一つ見ても、細かく丁寧にフォローされているということがとてもよくわかり、とても嬉しく思いました。

(会長) ありがとうございます。他にございませんか。八坂委員さん。

(八坂委員) 私も、長年書棚の下の方の段のところの本の見にくさがあったのを、このように今回初めて斜めにしていただき、また児童書の絵本が倒れて困っていたのも、中に棚板を入れていた

だいて、とても本が取りやすくなりました。また、柱のところにも、本を飾れるように皆さんの目につきやすいような配置の仕方にしていただきました。今回のコロナ禍での休館の間をすごく有効に使われて、本当にさらに使いやすい図書館にいただき、ととても感謝申し上げたいと思います。ありがとうございました。

(会 長)            ありがとうございました。他に。久池井委員さん。

(副会長)           さっきの話と重複しますが、私もとっても感心しました。これだけ具体的に写真で出されたのは今回が初めてではないでしょうか。細かいことはよく課題の積み残しがあるんですよ。「細かいことでも着実にしました」ときちんと写真で出せるのは素晴らしいですし、ここの中だけでの報告ではもったいないとすごく思いますので、いろんなかたちでアピールしてほしいと思っております。

4 ページの電子図書館サービスに戻ります。私も電子図書館サービスを利用したことがあります。『②利用状況』で「若い世代の利用は伸び悩んでいる」と書いてありますが、私が危惧するのは、ログイン数が減っていますよね。「伸び悩み」というのは同じ数が続くときであって、下がってくるのは「伸び悩み」ではないと思います。一度は電子図書館サービスを利用してみたけれども「やめておこうかな」と離れた人がいるということだと思えますし、それをなんとかしなくてはいけないと思います。

皆様も同じですかね、私は電子書籍を利用するのはだいたい個人的に雑誌か新聞です。新聞は紙も読みます。両方読みますけれども、じっくり読む本はやはり紙の本が読みやすいと思います。情報を得るのは電子書籍が良いのですが、いろんな本を俯瞰してみると、中身をざっと見るときは紙の本が良いと思います。双方のメリットをしっかりと打出し、こんなときは電子書籍がとても役に立ちますよとか、役割、新たな使い方を教えていただきますとちょっと離れた人も寄ってくるのではないかと思います。やはり利用者が少なくなるのはまずいのではないかと思います。ぜひそのところ、新たな利用者の開発とともに離れた人への対策も必要と思います。

(会 長)            こういった感想で結構でございますので、何かありましたら。

私から質問ですが、新型コロナウイルス感染症対策として好評だった部分など、いわゆる市民の声は聞こえてきますでしょうか。もしあったら紹介していただきたいと思えます。

(事務局)           「全部好評だった」といいたいところでございますが。

図書館の窓口では会計年度職員が最前線で頑張っており、利用者にはどのようなニーズがあるのかは、スタッフ間で情報交換をしています。子どもが騒いだ時に館内の利用者が受け入れてくれる図書館であってほしいと思ったりしています。

小さい子がたくさん本を借りて行ったら「ありがとう」と声をかけるとかそういったことをとおして現場の声を聞く、そしてできるところから皆で話し合って改善の対応していく、少しでも変化があれば利用者は感じていただけますし、そのリアクションをとらえてさらに次のはげみにして、前に進んでいかないといけないと常に思っております。これも全て館長のお考えの中で、ワンチームとなって今後も進めてまいりたいと思えます。

(館 長)            補足します。例えば、6 ページの2、最下段の棚角度の改修、利用者からの要望があり

ました。私よりも少し年上の方に、「一番下を見るととき腰をかがめてみるのが見にくい。何とかならんか」と言われました。現場を預かる司書と話し合い、一番下の段の本を一度全部外して、角度を付け、上の段の棚と本が引っ付かないようにしながら作業をやらせていただきました。教えていただいた方には「良くなった」と言っていたんですが、普段利用されている方は意外と気づかず、もともとこういう状態だったと思われるようです。これは逆に市民の方から教えていただいて、改善させていただいたところです。

(会 長) わかりやすい説明ありがとうございました。

図書館の使命には、「すべては利用者のために」という考え方がありますが、それをまさに地でいくような今のお話でした。つまり、我々のできるところをいかに改善して、利用者のために、今回のように高齢者の声を聞いて「これはちょっとまずい、何とかしよう」とそういう思いが利用者に伝わっていくわけですね。そういったことを具体的にされたということの現れだと思えます。

(副会長) 今の部分、これは図書館の館内には掲示されてないですね。

例えば、こういう写真のコーナーが館内にあって、利用者の方がそれを見たら「そんなことをされたのか」と思うのではと思います。実際、「図書館は休館中何をしているんだろう」と思っている市民の方もいると思います。「そうではありませんよ。これだけのことをしました、どうぞ見てください」といったら、「確かに変わっているな」とかですね。

「コロナ感染症対策はこれだけのことをしました、見てください」と。

実は、あまり表には出てきませんが、図書館に来たくない理由の一つに、コロナ禍で「いろんな人が触った本を触りたくない。新刊書を買ったほうが良い」という方もいらっしゃいます。そのときに、これだけの感染症の対策や消毒をおこなっていますよという、やはり安心感につながると思えます。ぜひ、ここだけの話ではなく、利用者の目に見えるように出していただければと思います。

(会 長) こういった PR できる場所は大いに、堂々と前に出されていいと思いますし、ぜひしていただきたいと思います。他に、村山委員さんどうぞ。

(村山委員) 同じところで申し訳ないんですけども、6 ページの 3 番の写真、絵本架の仕切りをされたというところについて、「ああ良かったな」と思いました。

これがないとどうなるかを幾つかあげたいと思います。

一つは、倒さないためにしっかり詰め、空いていたら他の本を持ってきてうめて、倒れないようにすることが多いんですね。そうすると、本を取り出すときに指が入らないために、本の背表紙の上のところに指をひっかけて取るんです。学校では「それはいけません」と指導しますが、そうしないと取れないので、皆がそこをひっかけるんですよ。そうするとどんどん本が傷むということになります。

もうひとつは体裁も悪いのでつめ込むと、「取り出しにくい」というのもあるけれども、「借りた本が返しにくい」。必死で間をあけてなんとか押し込むというふうになってしまうことが多いです。なぜこのようなことをいうかということ、私が児童館の図書館でいつもそういうことをやっているからです。

整理される方はきっちり絵本を入れたほうが見栄えもいいし、安定するからそうされる

んだけど、実際使うときには、仕切り板を入れて少しゆとりがあったほうが使いやすいと思います。書架をもう少し増やして少し間が空いたような感じで取り出しやすくなるのが気持ちよく本を借りたり返したりできるのかなと思います。今回は、このように仕切り板をつけられたということで、使いやすくなったんじゃないかと思います。

(館長) ありがとうございます。実はこの仕切り板、これは私が図書館に赴任して最初に職員から頼まれた仕事でした。「どうしたら良いかな」ということで、実はこれは固定式の仕切り板ではないんですね。「既存の本棚を傷つけずになんとかやりたい」ということで、実はコの字型に板を3枚はめ込んでいるだけです。それで、左にも右にもやれるということで、絵本が動かなくなったということです。若干動くかもしれませんが、今おっしゃっていただいたような効果があったのかなと思います。

全部手作業で、頑張って50個作りました。手前味噌ですが紹介させていただきました。

(会長) ありがとうございます。館長さんのご努力で、利用者のために、利用者の立場から見ることで見方が違って来るんですね。他にございましたら。長澤委員さん。

(長澤委員) 今の写真ですけれども、7ページの8にありますエントランスホールの掲示板に貼り付けてはいかがでしょうか。図書館ニュースといった感じで、随時掲示したほうが良いのではと思います。

(会長) 事務局からよろしいでしょうか。

(事務局) 恥ずかしがり屋なもので、自分たちがやった成果をお披露するのが恐縮です。私達の活動については、図書館ホームページや教育委員会のSNSなどで市民に発信しているところです。今ご指摘いただきました、図書館エントランスの掲示ですが、現在は「痛んだ本が悲しんでいます」ということで、貸出しの際に痛んだ本の掲示をしているところです。そういったものと合わせて、今の図書館の動きをよりタイムリーに発信することによって、先程のお話にもありました、「コロナ禍にあっても消毒などの対応をしている」という件も含めて、もっともっと前にアピールしていきたいと思います。

(会長) よろしいでしょうか。では、この件はここまでにしておきます。

## 2. 図書館の利用状況比較(平成29～令和3年度〔4～2月分、年間分〕)について

(会長) それでは、図書館の利用状況比較ということで、平成29年度からの比較について、事務局から説明をお願いします。

(事務局) 『2. 平成29～令和3年度における図書館の利用状況比較』について説明させていただきます。まず『(1)貸出冊数』から『(4)新規登録者数』までまとめて進めます。

8～9ページをご覧ください。この会議では、毎年度、このような5年間比較をご報告しているところですが、今回はそれぞれの数字を開館日で割った「1日当たりの平均値」を追加するとともに、数字だけでなくグラフ化することで、コロナの影響を含め、推移がわかりやすくなるのではないかと考えて「見える化」しました。

4つの数字をまとめた10ページのグラフをご覧ください。青で示している平成29年度は、交流館のオープンもあってここ最近では最も利用が多かった年で、緑の平成30年度はコロナ前で臨時休館がなかった年となります。

令和元年度と2年度には臨時休館を行い、黒点線の令和3年度は臨時休館したものの、臨時窓口開設により縮小したサービスを提供しました。

まず全体を通してわかるのは、夏休み期間中となる8月の利用が最も多く、一方12月は年末休館の影響もあり利用が少ないことが読み取れます。また、ここ最近、全国的な流れでもある図書館離れ、そして新型コロナウイルス感染症による臨時休館や来館控えの影響もあって、図書館の利用は黄色で塗っているとおり、残念ながら利用が落ち込んでいる状況です。

この中で特筆すべき点は、上段『(1)貸出冊数』における、黒点線の令和3年度についてです。令和3年2月に、貸出冊数の上限枠を見直し、本の貸出冊数の上限を10冊から20冊に変更しました。これらの影響もあってか、コロナ臨時休館前の4月、そして明けた10月の貸出数はコロナ前の平成30年度に近似するなど、一部盛り返している状況が見られます。

また、下段『(4)新規登録者数』における、黒点線の令和3年度の7月と10月は、臨時休館明けということもあってか登録数が伸びていっています。こういったタイミングを生かしながらいろんな仕掛けと申しますか、働きかけをすすめていかなければいけないということを感じました。以上を踏まえ、市立図書館のこれからの運営としては、図書館を利用したいと思う方に対し来館のきっかけをつくり、魅力ある蔵書構成や居心地のよい環境整備や手厚いサービスでおもてなし、更には、交流館等を含めた生涯学習ゾーン全体としての相乗効果や、配本や団体貸出など市立図書館以外の施設や各種団体との連携の輪を広げた事業展開などをやっていかないと、この黄色く色を付けているエリアからは出ることはできないと考えます。今お話したことは、幅広くボリュームある内容となりますが、タイミングよく効果的な働きかけを行うことで一矢報いたいと事務局としては考えているところです。以上が、図書館の利用状況比較となります。

(会 長)                    ありがとうございます。大変わかりやすい説明をしていただきました。

いくつかの指摘がありました。貸出冊数の事、タイムリーな蔵書構成だとか、魅力あるサービス、各種団体との連携、ネットワーク化という点についてもご指摘いただきました。そのなかで比較表についてお気づきの点、あるいはここから読み取れる内容についてございましたらご指摘いただければと思います。どうぞ。

(長澤委員)                これは前回も申し上げましたけれども、利用者の端に備考欄などを付け加え、電子図書館の利用者数と明示していただいて、合計人数を書いてはいかがでしょうか。

自分で書いてみたんですけども、そうするとほとんど遜色ないんですね。

「実際に図書館を利用した人数と電子図書館の利用者数と足すと、過去の利用者数に引けを取らない」ということを、胸を張って申し上げたほうが良いのではないのでしょうか。

(会 長)                    いかがでしょうか。今の件、もしありましたら。

(事務局)                    電子図書館サービスを導入して一年になりまして、ある程度定着してきたかなと思いま

す。データも集まってきましたので、今ご指摘の電子図書館サービスの利用状況、合わせて図書館に来ずとも配本、団体貸出など、そういったかたちのサービスも合わせて表示することで図書館利用の状況もうかがえるところだと思います。御意見を参考にしながら、また資料を改善していきたいと思っております。御意見ありがとうございます。

(会 長)           ありがとうございます。久池井委員さん。

(副会長)           私も、電子図書館サービスの利用と図書館の利用は両方で見ないと、せっかく電子図書館サービスを導入した意味合いがないと思います。

ただある一方で、図書館への入館と電子図書館のログインは大分違うと思います。

電子図書館のログインというのは気軽に入れるんですけども、すぐにログアウトする場合もあります。電子書籍の貸出しも、見るためにちょっと借りようというところもあり、一般の書籍の貸出しとはちょっと違うなというところがあります。

他の図書館の統計状況もまた調べていただいて、合わせて考えてよい部分と、合わせて考えてはいけない部分とを振り分けて考えていただければと思います。

それと、図書館の利用状況について、4つのいろいろな数字がでておりますね。

私は(3)の入館者数が非常に大切だと思います。貸出冊数は確かに上限が増えると貸出冊数が増えるんですね。入館者というのは、たとえ本を借りなくても、図書館に本を閲覧というんですか、見に行きたいと思う、図書館に親しみを持って来る人の数なんです。

これを増やさないと分母が広がらないのではと思います。

図書館に来ると、いろいろと工夫されている展示とか、新刊でこんな本がありますと見れば借りたくなるんです。借りたら返さないといけないんですよ。返すときに必ず来る。そして借りる。だけど一回縁が切れてしまうと何か月も行かなくなるという話を良く聞きます。ただ、貸出し、返却というサイクルが上手にまわっているとリピーターになるし広がると思います。入館者数は令和3年後半増えていますよね。これはコロナの状況等もありますが、私は非常に明るい兆しだと思ってみさせていただきました。

(会 長)           他にございましたら。

私も、コロナ禍にあっても多いなと思いました。もっと少ないかなと思っていたんですが、そんなことないなと思いました。それでは、ありがとうございました。

### 3.「第4次古賀市子ども読書活動推進計画」の策定について

(会 長)           第4次古賀市子ども読書活動推進計画が進んでおります。  
ではお願いいたします。

(事務局)           『3. 第4次古賀市子ども読書活動推進計画』の策定について御説明いたします。

11ページ、『(1)計画策定の趣旨』から『(4)策定スケジュール』をご覧ください

本計画は、子どもの読書活動の意義を踏まえた各種事業を計画的に実施するために策定するもので、ここにいらっしゃいます鈴木会長、村山委員、園委員を含む8名の策定協議会メンバーにおいて、現在、第4次計画策定に向けた協議を重ねているところです。

これまで4回の会議を開催し、先週の3月24日には、本文案の一部をお諮りしたところであり、今後の予定としては協議を重ねまして令和4年秋頃の完成をめざし事務を進め

ているところです。

12～13 ページ、『(5)アンケート結果から見る子どもの読書活動の現状』をご覧ください。

現状を把握するにあたり、対象を、乳幼児、小・中学生、高校生の3つのグループに分けて、乳幼児と高校生については独自調査を行い、小・中学生は、国が毎年実施している「全国学力・学習状況調査」の結果も活用しながら現状を分析しました。

ここでは、それぞれの主な傾向をご紹介します。詳細については、先日郵送でアンケート結果の概況報告を参考添付させていただいておりますので、そちらをご覧ください。

乳幼児については、保護者が読み聞かせをしている割合が9割を超え、読み聞かせに対する保護者の関心の高さや熱心さがうかがえます。

読み聞かせに使う本の入手や選書にあたって、市立図書館を利用しない保護者は約6割にのぼり、この理由としては、子どもが騒いだり、借りた本を汚損してしまうなどの心配もあって、「借りずに買う」という選択をしているようです。

次に、小・中学生ともに、読書が好きな割合は7割を超え、特に中学生は増加しており、福岡県及び全国平均を上回っています。

また、図書館に行く割合も、県及び全国平均よりも高く、ともに増加している状況です。

一方で、読書をしない層は小・中学校ともに3割で増加傾向にあり、1日に2時間以上ゲームをする割合は、5年前と比較して2割以上増えている状況です。

最後に、高校生の読書が好きな割合は、5年前と変わらず8割近くと高く、1か月に1冊以上の本を読んだ高校生は8割を超えています。5割は、月1回以上学校図書館に行くなど、読書や図書館を好意的に捉えていることがうかがえます。

幼少期からの読書状況の変化として、中・高校生では読む時間や本の量ともに減少していく傾向にあり、その理由としては、勉強や部活動等で忙しく、普段から本を読む習慣がなかったり、興味や関心に合う本が身近にないことを理由として、本を読まなくなる事情が明らかになりました。

また、紙の本もある程度は読んでいるものの、傾向としては、スマートフォン等で気軽に読むことができる電子媒体に移行しつつある状況がうかがえます。しかし、古賀市電子図書館の利用率は低く、電子媒体に親しんでいる一部の層しか利用者として取り込めていない課題が見えてきました。

14 ページ、『(6)これまでの成果と課題(まとめ)』をご覧ください。

これは、先のアンケート結果や、子ども読書活動の関係機関が5年間の活動内容について総括した内容を1枚に要約したものとなります。

この中で特に説明を加えたいのは、下段の網掛け部の「課題」の内容でして、課題全体を見ると大きく3つのポイントが見えてきます。

そのポイントとは、市立図書館が中心となった、一点目は「環境づくり」、二点目は「ネットワークの深化」、三点目は「読書の意義・重要性を啓発」です。また新たな時代の変化に対応した読書活動についても検討していく必要があるといった内容です。

事務局では、これらの内容を基に「第4次計画の基本目標」を定めました。

15 ページ、最後は『(7)第4次計画の体系図(案)』についてです。

第4次計画策定にあたっては、本文を市民目線でわかりやすい内容にしたいと考え、『計画の愛称』を「子ども読書プラン」とやわらかい名称にし、そして『計画の合言葉』を新たに設けたいと考えています。現段階では、「こどもわくわく、いつも本をそばに」といった内容を考えており、これは、「子どもに読書の感動や喜びを伝え、読書を身近なものとし

て習慣化することをめざす」ことを意味する内容で考えておりますが、前回の策定協議会でも御意見をいただいたところです。

また『計画の方向性』としては、基本的には、第3次計画の形を継承しますが、今般の活字離れやデジタル化を含む社会情勢の変化も勘案する中で、これまでの第3次計画の3つの柱のうち、1つ目の『幅広い環境づくり』と2つ目の『より深い連携』はそのままとし、3つ目の『理解と関心の普及』は『新たな時代への対応』に変え、学校 GIGA スクール構想におけるタブレットの有効活用等による電子図書館サービスの推進や、今どきの保護者の生活スタイルに合わせ様々な対応を推し進めていきたいと考えております。

その下は3つの『基本目標』に対し、それぞれ対象と事業を検討・整理しまして形付けて行きます。網掛けしている部分は、具体的な事業が入る予定ですが、現在検討中のため空白にしております。以上が、第4次古賀市子ども読書活動推進計画の策定内容となります。

(会 長)                    ありがとうございます。

我々の図書館協議会は、今説明された計画案には直接には関わっておりませんので、そういう意味では計画の策定状況の概要を報告していただいたということになります。細かく検討するというよりも、感想や御意見等、もしお気づきの点などありましたら出してください程度で良いのではと思います。

付け加えて、私もそうですが、委員であります園委員さん、あるいは村山委員さん、補足説明、あるいは補足の御意見などありましたら出していただければ、よろしいですかね。

14 ページの成果と課題のマトリックスになっている部分、15 ページの全体的な計画の体系図、このあたりで見ていただければざっと状況がわかるのではないかと思います。わかりやすくまとめていただきましたので、私達、実際に話し合っている委員も学びながら計画を立てているという状況でございます。

お気づきの点ありましたら出していただければと思います。どうぞ。

(副会長)                    14 ページに、家庭、地域、保育所等施設、学校とあって、市立図書館をはじめとする公共施設とあります。下を見ますと、市立図書館以外の部分があり読み取れないのですが、どちらかという古賀市立図書館の存在が一番大きいのではないかと思います。

15 ページも、いろいろな団体の取組がありますが、私は各学校も含めて全体の中で一番のつなぐ部分、要となるのは市立図書館だと思います。

市立図書館だけがするわけではありませんので、書き様はなかなか難しいと思いますけれども、中心となっている市立図書館の存在感をしっかりと出し、一番の要となって連携を取り調整する部分はここですという部分を、もっと打ち出すと良いのではと思います。

(会 長)                    館長さんどうぞ。

(館 長)                    御指摘ありがとうございます。実は今まとめている資料がございまして、まさに副会長さんがおっしゃったように、市立図書館から放射線状にいろいろな関係団体と連携しております。われわれ市立図書館が団体同士のつなぎ役になったり、あるいは小学校に読書ボランティアで行かれる方、そのようないろいろなネットワークがありまして、その中心に図書館を書いて、どういうネットワークがあるかということ整理している段階で、次

回お見せできると思います。

図書館以外の公共施設といいますと、児童館・児童センターというのがあります。例えば「ししぶ児童センター」には約1,000冊の蔵書があり、市立図書館から団体貸出をしています。あるいは、ブックスタート、セカンドブックなどの配本事業がありますが、サンコスモにはつどいの広場というのがございます、ブックスタートはつどいの広場、セカンドブックは図書館で取り組んでいます。図書館も中核としてやりますが、そういった関係の公共施設と連携しながらやっているということを図るためにこのような表現になっております。

副会長さんがおっしゃるように、図書館と中核となってお互い同士をつなぎながら有機的な連携ができるようにという気持ちは全く一緒でございます。書き方としてこのような書き方をさせていただいているということでございます。

(会 長) ネットワークのセンター的立場に図書館があるという構想図、ネットワーク図がいずれ出てくると思います。他にございますか。

では、計画の方、策定協議会を進めていきたいと思っております。

#### 4. 令和4年度予算における事業概要

(会 長) 令和4年度の図書館事業概要について16、17ページの説明をお願いします。

(事務局) それでは、『4. 令和4年度予算における事業概要』について説明します。

令和3年度までお諮りしていた「図書館の運営方針と活動目標」に対しては、委員の皆様から「具体性に欠けるのでは」といった御意見があったものですから、本日、これまでご説明した内容を踏まえる形で、運営方針と事業内容をわかりやすくまとめました。

内容としましては、4つの方向性として、一点目、「本と気持ちよく出会える場づくり」、二点目、「読書の楽しさやよろこびを伝えるきっかけづくり」、三点目、「新しい読書スタイルである電子図書館サービスの推進」、四点目、「読書をとおして、人や地域・学校などをつなぐ」。これらをもとに、それぞれの事業を位置づけております。

このように図書館運営全般を整理し体系化することで、我々自身も目的意識を持って工夫しながら、より効果的に事業展開できるのではないかと考えております。

以上、簡単ではございますが、令和4年度予算における事業概要となります。

(会 長) ありがとうございます。2ページにわたって文化課が担当されている予算関係について大変わかりやすくまとめられた資料でした。お気づきの点、御質問などございましたら、どうぞ。

(八坂委員) 「読書の楽しさやよろこびを伝えるきっかけづくり」という点に関してです。

一緒に送っていただいた資料のなかに、お母さんたちの意見として、「本のおみくじが良かった。図書館で借りる本を選ぶ際に絵本がたくさんありすぎて、迷っている間に時間が経ってしまう」という意見がありました。

確か、子ども読書の日と図書館まつりの際に本のおみくじのような催しがあったと思いますが、そのような機会をもっと増やして、「迷った時にはこの紙袋の本をどうぞ」とか、詳しい内容はわかりませんが、お子さんたちにとにかく借りてみるというような企画をさ

れてはと思いました。図書館の方にそれをお願いできたらと思います。

(事務局)

「本のおみくじ」、「福袋」というのはこれまでも折をみて行ってきました。

令和4年度につきましても子ども読書の日「ハッピーバッグ貸出し」という名称で福袋の貸出しを考えております。それ以外につきましては今後また検討が必要かと思っております。

(事務局)

自分は子育ては一段落したところでございますが、普段は妻が本を借りてきて読み聞かせなどを行っていました。いざ自分があの本の中から借りるとなると偏ってしまうんですよ。図書館の職員が選ぶ本に間違いはないという思いもございます。

例えば、先ほどおっしゃった本がパックになっているものとか、おすすめの本がチラシになって紹介されていて順番に選ぶとか、今の忙しいお母さん方の生活スタイルに合った手軽さも考えて行きながら、より図書館を身近なものにしてほしいといういろいろ職員のなかで試行錯誤して考えているところですので、随時かたちにしていきたいと思っております。

(井上委員)

私は今朝、市立図書館をのぞいてきました。お子さんの本が山ほどありまして、私がもし孫のために絵本を選ぶとすると、どれを借りていいかわからないと思いたので、「今月はこんな本」とか、ポイントを決めてある程度おすすめの本を展示されたらいいかなと思いました。

それと、小さいお子さんを連れておいでになる方は騒がしいといわれるということでございました。昔は「こがめルーム」がありましたよね。お子さん連れで本を読まれても、私は何とも思いませんけれども、人によっては騒音と思われる方もいらっしゃるから、お子さんと一緒に絵本を見られる小さなお部屋があったらと良いなと思いました。

また、今の中・高校生はゲームがすごく好きで、うちの孫もいつもゲームをやっています。それで、「本を読むのは何が好きか」と聞いたら「漫画が好き」と言います。

図書館を見たら漫画が少ないように思いますので、今は歴史の漫画とか、部門的にちゃんとした漫画がありますよね。そのような歴史の漫画とかを置いていただければ、それをきっかけとして図書館に行くということもあるのではと思いました。

(会 長)

館長さんどうぞ。

(館 長)

「こがめルーム」の件につきましては、令和4年度改修工事を行う予定で、使いやすくなるよう準備を進めており、6月くらいから利用できるようになると思っております。

令和3年度、図書館まつりの際に、図書館の開架コーナーで周りに利用者がある少し賑やかな中で、子どもさん向けの工作活動を行いました。私はそれを「良かったな」と思っています。

静かな空間が本来の図書館のあり方かもしれませんが、子どもさんたちが少し周りの方の迷惑にならない程度の賑わいを作っていただけるような空間も図書館のあり方かなと思っていますので、その辺は利用者との間合いを取りながらこれから少しずつやるのも一つかなと思いました。

それと、コミックのことですけれども、私も横山光輝の漫画『三国志』が大好きで、それを読んだことをきっかけに本物の『三国志』を読もうと思いました。おっしゃるように、やはり中・高校生の時にそういうことをきっかけとして本に興味を持つということが大事

なことかなと思います。

図書館には 10 代の利用者向けのヤングアダルトコーナーというのがあるんですけども、こちらの蔵書をどうするかということも、皆様のお知恵もお借りしながら今後検討しなければと職員のなかで話しているところです。

(会 長)           ありがとうございます。はい、どうぞ。

(副会長)           「子ども達の話し声がうるさい」とか、「気兼ねする」とかいうお話がありますが、小さい子ども達の来る時間というのは一日全部ではなく、小学生でも来やすい時間帯と全く来ない時間帯があります。

静かな図書館でじっくり読みたい方は、小学生などがいない時間帯に利用するのも良いと思います。また、先ほど説明があったように、たまには館内でそのようなイベントやおはなし会があって、「この時間帯は子ども達の声がします。ご理解ください」と案内して、普段から「いろんな人が利用する図書館ですよ」ということを、理解していただく手だても必要ではと思います。全国でも先進的な取組をしている図書館では、あえて間仕切りを作らずにおはなし会を実施している図書館もあります。最初のうちは「集中できない」とか、「子ども達の声がうるさい」とか、いろいろあったようです。しかし、そういうことを積み重ねていくことによって世代間の理解が進むと思いますし、やかましいと言われる方にもお子さんやお孫さんがいらっしゃるのですから、自分のこととして考えたら理解していただけるかもしれません。また、一日中ではありませんし、毎日ではなくイベントの時だけです。そのような理解していただく手だてが大事かなと思います。

(会 長)           ありがとうございます。園委員さんどうぞ。

(園委員)           令和 4 年度予算における事業概要、16 ページ、③調べ物支援の部分です。

私も借りたい本があるかどうか市立図書館の蔵書を検索するときがありますけれども、自分としては学校教育関係の専門書が少ないように思います。数年前に著名だった方の本はあるんですけども最近の本はないなと思うことがあって、そんなときには他市や県立図書館に行って借りています。相互貸借をお願いするケースもあるんですけども、今後調べ物をするときに、他市の図書館にある本も市立図書館に入れていただければと思います。これは大人の目線からのお話です。

もう一つは、17 ページ、④学校などとの連携、協力のところで、ドリームステージ、インターンシップ受入についてです。学校の教育の現状として、学校に人が入って来られなくなっている、学校図書館で親子で本を借りるということがなかなか難しくなっています。今までだと、授業参観があったら「親子で 5 冊まで借りられます」、「おうちのかたと本を借りて帰りましょう」という貸出しができていたのが、現在はできにくい状況にあります。また、親子読書会の活動もなくなって、親が子どもの読書に関心を持つという機会が少なくなっています。

例えば、親子で何かするという取組、子どものお仕事体験などがあればと思います。子どもは学校図書館でいうと、カウンターで貸出しの「ピッ」とするのが大好きですけども、低学年の子どもはやらせてもらえないので特にしがります。

子どもが「おうちの方と一緒にお仕事体験に行きたい」と言えば親も連れて行くだろう

し、「また図書館に行きたい」といえば、一緒に来るんじゃないでしょうか。そういう姿が見られればありがたいと思います。

また、これは今までの取組への感謝です。図書館事業の中に読書講演会があって、著名な作家さんをお呼びいただいて親子でお話を聞いたり、その方が書かれた本を買ってサインしていただいた小さな楽しみがありました。そこに来ている子ども達もお友達と話したり、お母さん同士で話したりして楽しかった思い出があります。

子どもを通して親が仲良くなるということが現在欠けているというかできない状況がありますので、そういったイベントがあればさらに古賀の良さがでてくるのではないかと思います。

(会 長)            ありがとうございました。他に何か。長澤委員さん。

(長澤委員)        17 ページ、「読書の楽しさやよろこびを伝え、そのきっかけをつくります」のところですが、ここに映画会があると、なんだか唐突な感じがします。この表現方法ですが、「名作を映画化した映画会」などと補ったらと思います。

(会 長)            ありがとうございます。この件につきましてはここまでにしたいと思います。

## 5 その他

(会 長)            その他についてよろしくをお願いします。

(事務局)        事務局から、会議録の内容確認と、次回、第 5 回の日程調整についてのお願いとなります。まず、会議録につきましては、この公開に先駆け、委員の皆様方には、内容確認・校正をお願いしたく、毎回 2 名の委員に順番にご協力をお願いいたしております。

突然ではございますが、今回は、久池井副会長と園委員にお願いしたいと考えておりますがいかがでしょうか。会議録ができましたらお手元にお届けいたしますので、ご覧いただき、必要に応じて訂正等していただき、ご署名後、お返しいただくこととなります。ご多用中とは存じますが、ご協力の程よろしくをお願いします。

次に、次回協議会の日程についてです。「令和 4 年度の図書館事業計画」と「第 4 次子ども読書活動推進計画の進捗状況、本文案」についての協議となります。6 月上旬、7 日(火)もしくは 10 日(金)に開催できればと考えております。皆様方のご都合いかがでしょうか。

(会 長)            今出されました、6 月 7 日、10 日のうち、ダメな日はありますでしょうか。

(副会長)        6 月 10 日がちょっと。

(会長)            では 6 月 7 日(火)の方向で。

(事務局)        それでは、6 月 7 日(火)の開催とさせていただき、開始時間については、午後 2 時から、場所は、改めてお知らせさせていただきます。以上となります。

(会長)            他にございませんか。なければ、これですべての協議事項が終わりました。

ここからは事務局をお願いします。

## 6 閉会のことば

(事務局) 閉会のことばを図書館長の中野より申し上げます。

(館長) 私の方から一点、来年度に向けて考えていることがございます。図書館の職員は、図書館の中のことはいろいろ工夫しながらやろうとしているところですが、今後は一歩外に出てアクションを起こしたいと考えています。

今、おかげさまで、保育所(園)、幼稚園、小・中学校、高等学校までの連携、あるいは、読書ボランティア団体の方々との連携は進んでおり、つなげさせていただいております。

しかし、例えば市内の大学とはまだ今連携できていません。今後、こちらから出かけて行ってお互いウィンウィンになるような何かコラボレーションができないかお願いに行きたいと思えます。

さらに、古賀市内には多くの企業があり、国内シェアナンバーワンを誇る企業や、世界有数の技術を持った企業もあり、これは古賀市の誇りだと思っております。

そういった企業と連携をとりまして、例えば、会社の歴史を刻んだ社史などを寄付していただき、それを郷土コーナーに展示し、そこで働いていた方のお子さん、お孫さんが誇りに思うようなコーナーを作ると良いのではと思えます。図書館の中も大事ですけども、もっと外に打って出ながら、逆に図書館に足を運んでいただけるような仕掛けもこれから少しずつやっていきたいと思っております。

こういった協議会の場で、委員の皆様からもアイデアがあればぜひいただきたいと思っております。もっと我々も頑張っていきたいと思っておりますので、今日のご指摘、御指導をお願いできたらと思えます。

これを持ちまして第3回古賀市図書館協議会を終了します。ありがとうございました。